

一般質問

12月定例会では、18人の議員が一般質問を行いました。（順不同）

Q&A



一般質問とは、本会議で議員が市政全般にわたって市長等（執行機関）に対して疑問点を質問したり、政治姿勢を明らかにしたりするものです。



高齢者サポートサービスの現状と課題について

「志政会」 米谷 政久

Q 高齢者の身元保証や、亡くなった後の支援を行う高齢者サポートサービスの現状と課題について伺う。

A 【保健福祉部長】 高齢者等終身サポート事業の具体的な支援としては、通院の送迎や付き添い、生活費の管理等の日常生活支援サービス、連帯保証等を行う身元保証サービス、死後事務サービスなどがあり、今後、多死



室内温水プール新設と給食センター設置について

「いせはら為成会」 大垣 真一

Q 室内温水プールと、給食センターの設置における費用対効果の見解を伺う。

A 【教育部長】 室内温水プールは、屋外型に比べ、建設費用をはじめ維持管理に多くの経費がかかるが、近年の暑さや教職員の負担軽減等を考慮すると、その効果は大きいものと考えている。公共施設再配置プランに基づき、学校プールの在り方の検討とともに、さまざまな



健康経営推進を国任せでなく、市として事業展開すべき

「いせはら為成会」 越水 崇史

Q 健康経営を国任せではなく市として事業展開することで、健康経営への理解が深まり、参画する企業も増えると考えているが、市としての見解を伺う。

A 【健康づくり担当部長】 現在、保健師や栄養士は、市内の中小企業や商工会、工業団地組合などが集まる場において、出前健康測定会の利用や、秦野市、平塚保健福祉事務所秦野センターと共同



空き家条例制定について

「いせはら未来会議」 安藤 玄一

Q 空き家問題の迅速な解決には、本市独自の空き家条例を制定することが効果的だと考えるが見解を伺う。

A 【都市部長】 県内では6市3町が条例を制定している。多くは、空家等対策の推進に関する特別措置法が制定される前後に、空き家所有者の責務や助言などの規定により、所有者に適切な管理を求めることを定めている。また、倒壊等により不特



新たな財源づくりについて

「いせはら為成会」 館 大樹

Q 新たな財源をつくるため、基金の運用手段の拡大として、市内に本社機能やゆかりのある企業への株式投資を行うことに對する見解を伺う。

A 【企画部長】 株式については、元本保証がなく、収益の見込みを立てることが難しいため、確実に



「令和型不登校」に対応した多様な不登校支援を

「いせはら未来会議」 橋田 夏枝

Q 保護者や教職員の精神的負担を軽減しながら、令和型不登校にどのように対応していくのか。

A 【学校教育担当部長】 学校と教育委員会が連携して、不登校の要因を多面的かつ的確に把握し、早期に適切な支援につなげるアセスメントを行い、どのような対応が、その児童生徒に合っているかを確認しながら丁寧に進



高齢者のために「タクシー券の助成」の事業化を

「日本共産党」 勝又 澄子

Q かなちゃん手形購入費助成やタクシー券の助成について、市長の考えを伺う。

A 【市長】 本市においても、今後、要介護認定者をはじめ、何らかの支援



持続可能な市政経営について

「公明党」 今野 康敏

Q 苛酷な自治体間競争の中で本市の競争優位性を持続させる経営戦略を打ち出す必要があるが、市長の考えを伺う。

A 【市長】 まちづくりをより確実に、より効果的に進める経営手法として、職員的能力を最大限に引き出しながら財源をできる限り確保するため稼働といった視点を取り入れる。また、既成概念にと



いせはらの未来を見据えた財政について

「進風会」 荻野 貴文

Q 大規模プロジェクトの実施に当たっては、基金の積み立てが一般的な手段と考えられるが、緊急性の高い事業が山積みしている中、基金を積み増すための時間的余裕はあるのか伺う。

A 【企画部長】 必要となる一般財源額は、事業の進捗や計画の見直しなどにより変動が見込まれることから、基金の積み立てや取り崩しについて適宜検討することとしてお

ー・ドアで外出できるタクシー券の助成について、事業化していきたいと考えている。

【その他の質問】

◎高齢者の補聴器使用促進について ほか

【その他の質問】

◎高齢者支援の拡充について

り、各年度の予算計上額は予算編成において改めて調整している。

施策推進と財政健全化とのバランスを踏まえ、基金の活用を図りつつ、市債を必要最小限度において有効に活用しながら、実施が不可欠と判断した建設事業等については、計画どおり推進できるように取り組んでいきたいと考えている。

【その他の質問】

◎いせはらの未来を見据えた防災計画について